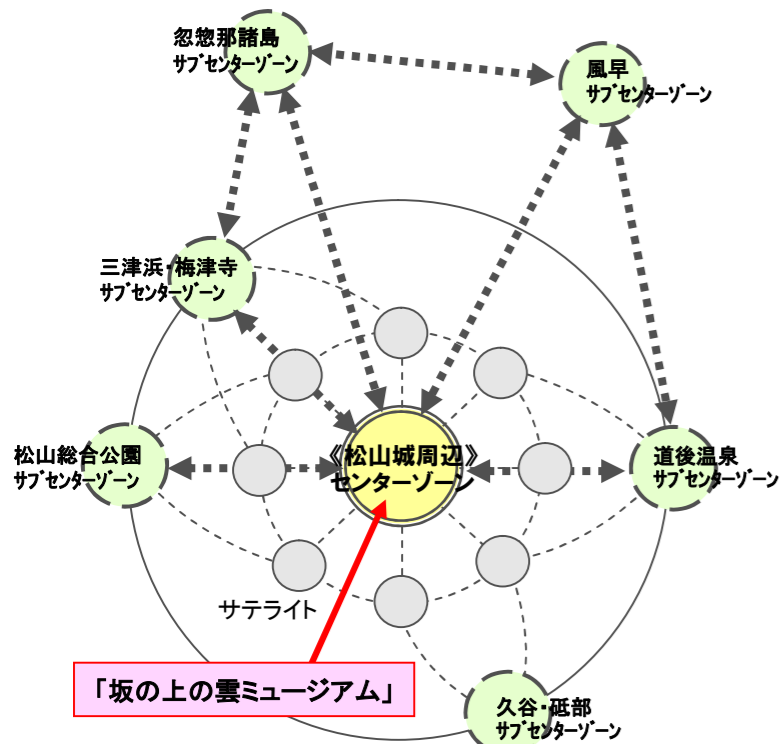


「坂の上の雲」フィールドミュージアム構想

『坂の上の雲』ゆかりの資源など、多くの地域資源が点在する松山市内全体を「屋根のない博物館」に見立てて、それぞれ特色を持った松山城を中心としたセンターゾーンと、道後など6つのサブセンターゾーン、個別資源としてのサテライトを設定し、まち全体の魅力を伝えます。

【『坂の上の雲』を軸とした21世紀まちづくりの視点】



出典:『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり基本計画より

上記のような構成の中で、サテライトはセンターとサブセンターをつなぐ中継ポイントとして、市内各地の資源要素を活用しながらフィールドミュージアムとしての有機的な導線を誘導していく役割を担うものと位置付けられています。

フィールドとのつながり

坂の上の雲ミュージアムと『坂の上の雲』フィールドミュージアムとのつながりを促進していきます。

- フィールドミュージアムツアーの定期的な開催
- フィールドミュージアムの回遊促進に役立つ地域情報の収集・提供

まちづくり活動への支援と連携

『坂の上の雲』フィールドミュージアムの具現化活動として、地域資源の利活用に主体的に取り組むNPOや市民団体への支援をおこない、官民の協働によるまちづくりを進めていきます。

- 『坂の上の雲』フィールドミュージアム活動支援事業の実施
- まちづくり活動の紹介
- まちづくり活動団体との協働イベントなど連携の強化



導入事例
ご紹介
Museum Solution

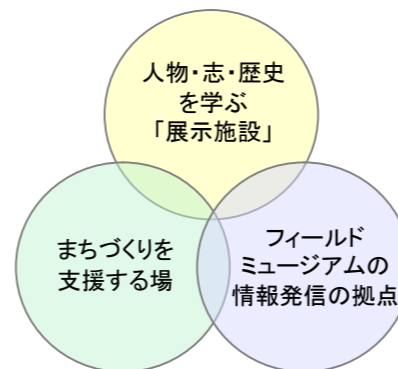
坂の上の雲ミュージアム様
“MusethequeV3”
収蔵資料管理システム
導入事例のご紹介



坂の上の雲ミュージアムのご紹介

名称	坂の上の雲ミュージアム	開館日	平成19年4月28日
所在地	松山市一番町三丁目20番地	電話	089-915-2600

「坂の上の雲ミュージアム」は、松山市が推進している「フィールドミュージアム構想」の中核施設として、平成19年4月28日に開館いたしました。その主要目的は、松山をより魅力的なまちにする諸活動の中核的な役割をはたすことにあります。このミュージアムの基本理念は、司馬遼太郎の長大な作品である『坂の上の雲』にもとづくもので、司馬作品のメッセージに耳を傾けると同時に、過去から現在、未来に至る時の流れについて、それぞれの立場から思惑を深める場として機能をはたすことが期待されています。



ミュージアムの3つの機能

【ミュージアムの3つの機能】

①展示機能

主人公たちの直筆資料やグラフィックパネル、模型、映像を通して、小説『坂の上の雲』に描かれた時代を感じれる展示で、訪れた人が自ら感じ、考え、学べる展示を目指す。

②フィールドミュージアムのガイダンス機能

松山市内には、小説ゆかりの地をはじめ、さまざまな地域資源が存在する。『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想の中核施設として、情報を収集し結びつけて発信する。

③まちづくり支援機能

市民主体の活動により、市内の各地において伝統・文化が守られ、新たな地域資源が生み出されている。ミュージアムは市民参加のまちづくりの拠点として、市民の取り組みを支援している。

システム導入の狙い

坂の上の雲ミュージアムは、一小説作品を対象とする全国でもまれな博物館施設であることからその展示内容においても他の人文系博物館とは一線を隔しており、その資料情報の管理や情報提供(公開)の方法には、高度な専門的知識や経験はもとより、何よりも優れた獨創性が要求されることとなります。坂の上の雲ミュージアム展示情報システム(ICTシステム)は、このような背景のもとで開発されたシステムです。

本システムの第一の目的は、ミュージアムでの資料情報等の収集管理であり、松山市民の共有財産である資料の保存・管理・研究・公開等に役立てるためのものです。第二の目的は、来館者の多様なニーズに対応するための資料情報の提供(公開)であり、このことは集客効果の増大やサービスの向上を可能するだけでなく、各種教育支援や地域活性化を促す狙いがあり、松山市の博物館行政に無限の可能性と広がりを持たせることにあります。

このようなデータベースシステムを導入することは、ミュージアム職員による資料の保存・管理・研究・公開等の業務を円滑にするほか、各種研究者等への研究支援の場を提供することにも繋がります。また、デジタル化された資料情報の提供(公開)は、劣化の恐れがある原資料を用いることなく、多くの来館者への情報提供を可能にするとともに、展示内容のより深い理解を助けるものとなります。



今後の取り組み

今後は、坂の上の雲ミュージアムの収蔵情報をもとに、厳選したコンテンツを広く公開するために、インターネット公開の環境整備を目指しております。

また、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想にある、サブセンターゾーンおよびサテライト情報との連携強化を図ることにより、松山市民はもとより愛媛県民や全国の利用者、さらには観光客にとっても、欲しい情報を速やかに提供できる仕組みをつくるのが目標であり、それに向けてさまざまな課題に取り組んでいるのが現状です。

坂の上の雲ミュージアム 展示情報システムのご紹介

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

坂の上の雲ミュージアムにおける展示情報システムは、①収藏品管理システム ②ミュージアム情報閲覧・検索システム(デジタルミュージアム) ③機器マネージメント展示システムの3つサブシステムより構成されています。ここでご紹介いたしますデジタルミュージアムシステムは、このサブシステムの機能を活用し、ミュージアムの多くの情報を利用者に分かり易くさまざまなかたちで情報提供を行なっております。

デジタルミュージアムの機能概要について

デジタルミュージアムは、ICTシステムを駆使しさまざまな表現で来館者向けに情報提供をおこなっております。ここでは、その主な機能についてご紹介いたします。

◆Digital Museum 展示室を見る・・・A

特徴的な建物である展示室を擬似3D空間で表現することで、実物の展示品紹介文だけでは説明しきれないことや展示品の詳細な補足説明をデジタル情報で提供することを実現しています。

◆資料を探す・・・B

富士通の収藏品管理システム“Musetheque”で、『坂の上の雲』ミュージアム展示情報システムの収藏品管理業務を運用しております。利用者が収藏品データベースを検索することにより、各種資料の詳細情報を表示することができ、さらに高速検索機能により、大幅な検索待ち時間の短縮を実現しております。

◆フォトギャラリー・・・C

富士通の「ビジュアル検索システムMAE」により、収藏品の画像や関連動画等のコンテンツ情報(サムネイル)を3次元空間に配置し、年代、色彩、地域その他の分類により、さまざまな観点で並び替えることで、興味ある収藏品情報を直感的に見つけたり、他の収藏品との意外な関係や新たな発見の場を創ることができます。

◆資料を読む・・・D

一般への公開が難しい書物を実物展示のように公開できます。冊子をめくる感覚で全頁を見ることができ、翻刻も原文と比べながら読むことができます。

- ・各頁の画像の端にカーソルをあてると、紙のしなやかさを感じながら頁をめくることができます。
- ・画像にカーソルをあてるとその翻刻文が1行ずつ表示されます。

《 デジタルミュージアムの画面 》

A ◎展示品と展示品に関連する資料情報をミュージアムを模した展示3D空間から閲覧。CMSによって展示情報の入れ替え可能

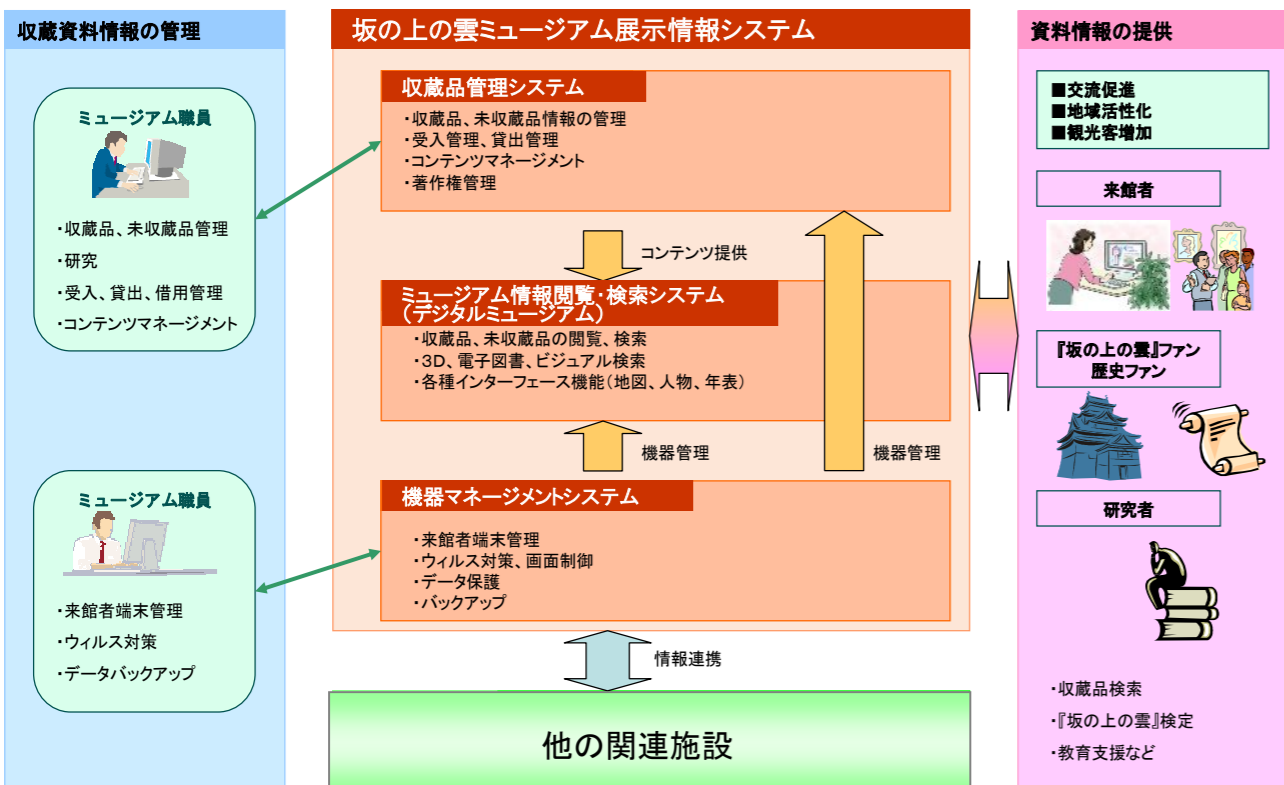
B ◎Musethequeによる収藏品閲覧

C ◎再現CGシーンも盛り込んだロシアン捕虜の物語映像

D ◎本を捲る感覚で、資料の原文を翻刻表示も交え閲覧

注 * Musetheque: 収藏品管理システム * MAE (Multimedia Archive Explorer): ビジュアル検索システム

《坂の上の雲ミュージアム展示情報システムの全体イメージ》



システムの導入効果

- ・デジタルミュージアムの多彩な表現により、来館者への効果的な情報提供サービスが実現できた。
- ・Webシステムによる一元管理により、複数の同時アクセスが可能となり作業の効率化が図れた。
- ・マルチメディア機能は、メタデータと画像情報(サムネイル)の確認が容易で、正確な情報の把握により作業の生産性が高まった。また、来館者への展示品に関連する画像情報の提供にも役立った。
- ・高速検索機能は、検索待ち時間の大幅な改善を実現し、円滑な収藏品管理業務を可能とした。



展示情報システム